

第6章 景観向上効果調査事例集

6-1 事例集の位置づけ

5章に示した景観向上効果調査実施の参考になるよう、13事例について、調査の手順、実施に必要な準備、実施手法及び取りまとめ方法についてまとめたものである。当該事業の事業分野、事業特性等を考慮し、類似する事例について参考とされたい。

6-2 事例集

6-2-1 景観向上効果一覧

本章で取り上げた13事例について、事業の条件、および当初想定された効果と調査により確認された効果の対応を整理したものを、表-6.1に示す。

景観向上効果調査の実施にあたっては、第4章の内容を踏まえ、事業の条件、もしくは確認したい景観向上効果において類似する事例を参考にされたい。

表-6.1 各事例の事業の条件、および景観向上効果一覧

事業分野・施設		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII
		都市・地域整備	公園	河川	河川	河川	海岸	道路	街路・遊歩道	橋梁・高架橋	橋梁・高架橋	駅・駅前広場	港湾	港湾
事例名称		金山町まちなみ整備	児ノ口公園	太田川基町護岸	津和野川河川景観整備	岸公園	指宿海辺の散歩道	福島西道路	壺屋やちむん通り	勝山橋	油津堀川運河・木橋(夢見橋)	日向市駅周辺地区整備	門司港レトロ地区	自動車道
事業の条件	竣工年	—	95	83	96	99	94	98	98	00	07	—	—	97
	直轄(事業主体:国)			●		●		●						
	整備の種類(新規/改修)	改	改	新	改	改	改	新	改	改	新	改	新	新
	事業の総合性(複合的整備:●)	●				●					●	●	●	
	PIの実施	●	●					●	●		●	●		
	事業の規模(大:地域全体へ影響、小:コミュニティへ影響)	大		大				大		大		大	大	大
地域住民以外の利用				●	●	●	●	●	●			●	●	●
景観整備による効果														
整備された空間の認知	①整備した空間の印象の向上	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	②整備した空間の機能向上に対する認知	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
意識に与える効果	①親しみ・愛着・誇りの向上/その他	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	②地域のシンボル・ランドマークとしての認知、地域らしさの認知	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	③景観やまちづくり、環境等に関する意識の高まり	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	④住民、行政、設計者、施工者の信頼関係の構築	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
活動に与える効果	住民の日常生活での利用に与える効果	①利用の増加	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		②利用の多様化	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		③コミュニティの形成	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		④イベントの開催	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑤維持管理活動の実施	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	団体の活動に与える効果	①イベントの開催	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		②維持管理活動の実施	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		③地域活動団体の活動の発展	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		④隣接する空間効果	●	●	△	●	●	●	△	●	●	●	△	△
		⑤間周縁に与える効果	●	●	△	●	●	●	●	●	●	●	●	△
空間に与える効果	①建物の形態、ファサード、意匠等の変化	●	●	△	●	●	●	△	●	●	●	△	△	
	②建築外構の変化	●	●	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
間周縁に与える効果	①周辺施設整備との連携	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	②視点場の形成	●	●	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
良好な景観形成に寄与する制度等の構築	①景観条例、景観計画等の策定	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	②景観形成に関する協議会の設置	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
景観整備による波及効果														
地域経済に与える効果	①地場産業の活性化	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	②観光振興	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	③民間投資の誘発	●	●	△	●	●	●	●	●	●	●	●	△	
外部評価	①外部機関(専門家)からの表彰	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	②マスコミ・マスメディア掲載の増加	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	③地価の上昇、居住者の増加	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	

●：確認された景観向上効果、△：想定と異なり確認されなかった効果

6-2-2 各事例の紹介

I 金山町まちなみ整備（山形県金山町）

I-1) 調査設計

I-1-1) 事業条件の整理

I-1-2) 景観整備の目標、景観整備方針、および想定された効果

I-1-3) 調査計画

I-2) 調査結果

I-2-1) 各調査手法における調査結果概要

I-2-2) 確認された景観向上効果

I-3) 考察

I-3-1) 想定された効果と調査により確認された効果の対応

I-3-2) 効果とその波及フロー

I-3-3) 景観整備方針の書式による整理

I-3-4) 調査諸元・手法の設定に係る課題

II 児ノ口公園（愛知県豊田市）

(以下同様)

I-1-2 景観整備の目標、および想定された効果

本事業における計画者・設計者の意図と、景観に配慮した内容について、文献資料および、計画者・設計者へのヒアリング調査結果より整理した。また、それらから想定される景観向上効果について下記のように整理した。これらにより、調査において対象とする景観向上効果を選定した。

計画・設計の意図		景観に配慮した内容	想定された効果
A 古い建物と新しい建物の調和			
1	住宅建築コンクールの開催	○金山型住宅の普及と大工職人の育成・技術向上を目的として設立 ○住宅の周囲の環境・景観についても審査対象とする	●金山型住宅に対する親しみ・誇りの向上 ●古い建物に対する親しみ・誇りの向上
2	地場産業、伝統技術の活用	○住宅に、金山で育った木材や伝統的な材料を使用 ○在来工法（白壁と切り妻屋根）による住宅建替	●生活道路（裏道）に面する箇所 ●金山型住宅への建て替え ●建築物・工作物の修景
3	既存の古い建物の活用	○地元の人が集える拠点としての修景整備	●古い建物の保存・復元
B 街並み回遊ルート整備による回遊性の向上			
1	堰・水路の整備	○水路は町中を張り巡らせるように整備 ○家並みと調和する石積みで整備	●生活道路（裏道）を散策するようになった ●公園を利用するようになった
2	生活道路・公園等の整備	○道路舗装は地域の材料である、緑色の安山岩を骨材とした洗い出しを採用	●清掃等の維持管理活動を新たに行うようになった（回数が増えた） ●生活道路、水路、公園に面する箇所の修景
C 基準誘導による美しい街並みの形成			
1	金山町地域住宅計画（HOPE計画）の策定	○美しい街並み形成の考え方、地域に合った住宅モデルの提案、これらの進め方等について体系的に整理 ○杉林と豪雪という町の風土と金山杉を使った木造住宅が景観形成のキーワードとする。	●金山型住宅に対する親しみ・誇りの向上 ●生活道路（裏道）に面する箇所
2	金山町街並み景観形成基準の制定	○道路からの外壁の後退 ○屋根の色調（こげ茶・黒）、屋根の形態（切妻で妻入の大屋根）、屋根の勾配（3/10～5/10） ○外壁の仕上げ（オイルステン仕上げや木材保護着色材仕上げの杉板張等）・（しっくい、モルタル等塗壁）	●金山型住宅への建て替え ●建築物・工作物の修景 ●古い建物の保存・復元

I-1-3 調査計画

本事例の特性を踏まえ、調査のねらいと手順を以下のように定めた。

【調査のねらい】

「金山町の街並み（景観）づくり 100 年運動」は、町民を主役として、個人住宅や生活道路、公園を主な整備対象として街並み形成を図ってきた。現在も、町民による自発的な地域活動（清掃活動やイベント運営等）が行われていることを踏まえ、アンケート調査対象はまちづくり整備地区内の全 691 世帯（店舗兼住宅を含む）、ヒアリング調査対象は、現在および当時の行政担当者、計画・設計者、また地場産の金山杉に関わる産業団体、地元活動団体・自治会とした。ヒアリング調査対象については、事前に文献やホームページ等によりその連絡先を調べ、調査の趣旨やヒアリング項目等について断りを入れた。

特に、本事例については、整備期間が長期にわたっていることと、整備対象が面的に広がっているため、他の事例に比べて整備による効果が多岐にわたることが予想された。したがって、アンケート調査においては自由回答欄を多く設け、整備地区内の全世帯を対象とした。また、ヒアリング調査についても、多様な活動内容の団体を対象として、長時間（1 団体 2～3 時間）のヒアリングを実施した。さらに、定点観測調査については、できるだけ多くの利用実態をとらえるため、散歩や清掃が活発となる朝 5 時を開始時刻とし、日が昇っている夕方を終了時刻とした。

※回収率を大きくするために留意した点

- ・金山町の担当者との事前調整を通じて、町との共同実施とした
- ・事前に各種地域団体の代表者に内容確認を依頼し、修正を加えた（いくつか例を掲載）

※調査票の設計にあたって工夫した点

- ・回答者の日常利用や空間の選好について、把握の精度を高めるため、地図を用いた記入欄を用意
- ・整備対象が多岐かつ事業期間が長いことから、より多くの効果の発現が想定された本事例においては、自由回答欄を数多く、かつ大きめに用意した

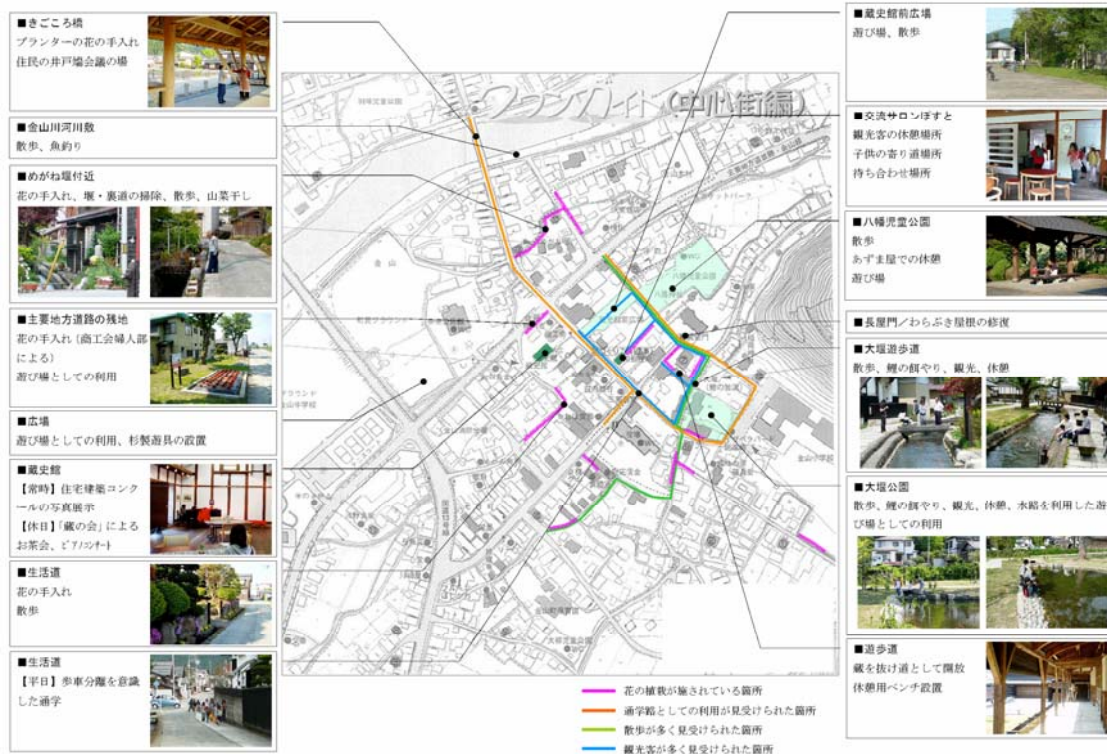
I-2 調査結果

I-2-1 各調査手法における調査結果概要

・アンケート調査、およびヒアリング調査の結果概要

現地での調査		対象	手法
利用者	利用者へのアンケート調査	街並み整備地区内の全691世帯（十日町・七日町・内町・羽場）の全世帯 ・回収数：249通（回収率36%）	全戸郵送
	利用団体へのヒアリング調査	①森林組合 ②蔵の会 ③街並み案内人 ④鯉を愛する会 ⑤商工会 ⑥金山大工	ヒアリング
	定点観測調査	整備地区内における平日・土日の利用者	街並み整備地区内での定点観測
行政	行政担当者へのヒアリング	金山町	ヒアリング

・定点観測の結果概要



I-2-2 確認された景観向上効果

調査により、以下の効果が確認された。

景観整備による効果		具体内容	
整備された空間の認知	①整備した空間の印象の向上	・（今現在の）金山の街並み（景観）をととても良いと思う ・街並みをとりにまく、周囲の豊かな自然の風景が好きだ ・白壁と切妻屋根の家並みの風景が好きだ ・石積み水路の大堰/めがね堰と、ピンコロ石で舗装されたその脇の小路の風景が好きだ	
	②整備した空間の機能向上に対する認知	・以前は多くのゴミが流れていた水路であったが、整備後には皆ゴミを捨てなくなった ・堰へ鯉を放流してから水がきれいになり、ホタルが見られるようになった	
意識に与える効果	①親しみ・愛着、誇りの向上/その他	・（今現在の）金山の街並み（景観）に親しみ・愛着を感じる ・金山に住まい始めた当時と比べて、今現在の金山の街並み（景観）の方が親しみ・愛着が強くなった ・（今現在の）金山の街並み（景観）を誇りに思う ・金山に住まい始めた当時と比べて、今現在の金山の街並み（景観）の方が誇りに思う気持ちが強くなった	
	②地域のシンボル・ランドマークとしての認知、地域らしさの認知	・金山型住宅の建ち並ぶ通りに来ると、帰郷した実感が湧く	
	③景観やまちづくり、環境等に関する意識の高まり	・来訪者（視察者・観光客）の増加をきっかけとした、景観・環境等に対する地元住民の意識の高まり ・他地域との交流（羽州街道交流会）を通じた、金山らしさについての認知 ・“金山大工”の自己の働きに対する誇り、責任感の高まり（“住宅建築コンクール”の開催や、当時のメディア掲載増加を通じて）	
活動に与える効果	住民の日常生活での利用に与える効果	①利用の増加	・散歩や寄り道のときに裏道を使うようになった
		②利用の多様化	・子どもたちの遊び場としての利用 ・水生動物との触れ合い活動の発生 ・住民・行政の有志による海外視察研修 ・地元小学校における景観教育の実施 ・地元住民創作の絵や生け花等の展示 ・地元有志団体「蔵の会」や商工会による、公園・屋根付橋等における、来訪者を招いてのお茶会の開催（毎週）
		③コミュニティの形成	・裏道は、近隣住民同士が日常的に花木の手入れや清掃をしながらの会話する場である。同時に、来訪者と地元住民との会話の場でもある ・屋根付き橋“きごころ橋”が、地元住民同士の会話の場となっている
	団体活動、維持管理活動に与える効果	①イベントの開催	・蔵史館前での“あおぞら市”の開催 ・公園での“自然祭（じねんまつり）”の開催
		②維持管理活動の実施	・商工会による“花いっぱい運動”の実施 ・住民個人による裏道の緑化 ・既存の地元団体による、当番制での美化活動の頻繁な実施 ・個人による日常的維持管理活動の実施
		③地域活動団体の活動の発展	・新たな地域活動団体の発足（鯉を愛する友の会、蔵の会、街並み案内人の会、Wagestars） ・地域活動団体の活動内容の進展（森林組合による、ストリートファニチャー等の設計デザインの推進、等） ・他地域・他団体との交流・連携（海外視察研修を通じた他の自治体、あるいは類似テーマをもつ地元団体との交流の促進、等）
空間に与える効果	備隣に接する空間効果	①建物の形態、ファサード、意匠等の変化	・「金山型住宅」への建替え ・裏道に面する箇所への修景（朽ちた納屋への板壁の設え、住宅の色彩変更、等） ・自宅（店舗）を建築・改築したとき、周囲の街並み（景観）に配慮して外観を整備した
	備周に与える効果	②建築外構の変化	・水路に面した箇所への植栽の施し ・雑多な生活用品の整理
景観整備による波及効果		①周辺施設整備との連携	・後年における周辺整備（事業地区内）における類似手法の波及（大堰→めがね堰）
景観整備による波及効果		具体内容	
地域経済に与える効果	①地場産業の活性化	・地場材の活用 ・地場産業をとりにまく技術・人材の活用、育成 ・地場産業に関わるPR活動	
	②観光振興	・観光ツアーの発生	
外部評価	①外部機関(専門家)からの表彰	・第1回美しい都市づくり賞（昭和60年度）、手づくり郷土賞（平成4年度）、日本建築学会賞（平成14年度）、土木学会デザイン賞（平成19年度）、他多数	
	②マスコミ・マスメディア掲載の増加	・新聞、書籍などへの掲載の増加 ・取材者、視察者の増加	
	③地価の上昇、居住者の増加	・整備地区内（七日町地区）での居住者の増加（微増）、Iターン者の発生	



▲散歩がてら、大堰の早朝清掃当番



▲大堰に放流された鯉へのエサやり



▲仙台からのツアー客を、地元住民が街並み案内



▲広場に設置された芸大生作のオブジェで遊ぶ、地元の子ども



▲大堰公園の植栽への水やり



▲散歩の途中、金山杉のベンチで一休み



▲きごころ橋にもたれて世間話



▲ピンコロ石の裏道を集団登下校



▲観光客が記念写真撮影



▲大堰公園でのスケッチ



▲地図を片手に裏道を散策する観光客



▲「蔵の会」によるもてなし

I-3) 考察

I-3-1) 想定された効果と調査により確認された効果の対応

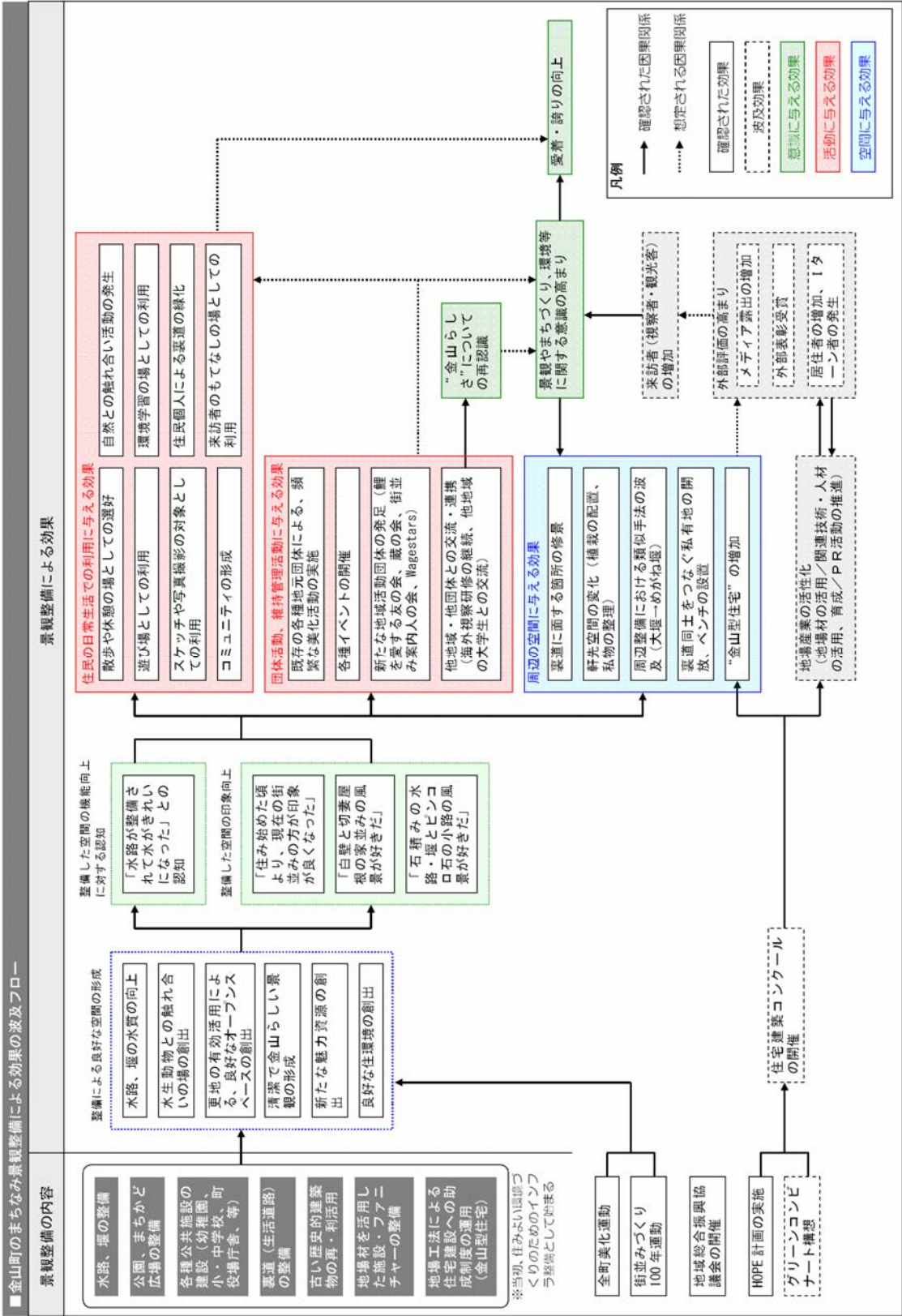
想定された効果すべてが、調査により確認された。また、それに加えて、当初想定していなかった効果として、下記が新たに確認された。

- a. メディアの露出増加
- b. 外部機関による表彰など、外部評価の高まり
- c. スケッチや写真撮影などの対象としての利用
- d. 施設内に生息する生き物とのふれあいの場としての利用
- e. 来訪者のもてなしの場としての利用
- f. 観光客の増加
- g. 整備後の新たな地域活動団体の発足

これらのうち、a、b、e、f、g はヒアリング調査により、また c、d については定点観測調査により確認された。

I-3-2) 効果とその波及フロー

以上により整理された、景観整備の内容と景観整備による効果、およびその波及フローは、下記のように示すことができた。各効果項目同士をつなぐ矢印は、主にヒアリング調査結果に基づいており、その因果関係が関係者により語られたものである。



I－3－3) 景観整備方針の書式による整理

「基本方針(案)」に記載されている景観整備方針の書式に則り、“①景観形成の目標像” “②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係性に関する基本的な考え方” “③(①と②を実現するための)施設や空間そのものの景観整備の具体的方針”と、確認された景観向上効果との対応を、以下のように整理した。

その結果、当該事例の景観整備は現在も進行中ではあるが、整備開始当初の目標や考え方は達成されていると判断できる。

①当該事業における景観形成の目標像			景観向上効果		
1. 人と自然との関わりづくり、さらには人と自然との共生（調和）づくり 2. 美しい街並みの形成とC I（コーポレート・アイデンティティ）化、地域の個性化 3. 地域風土、地域材、在来工法等、杉を中心とした地域資源の有機的結合			・整備した空間の印象の向上（地域の資源性の再認識／良質な空間の認識）＜左記1、2に対応＞ ・親しみ・愛着、誇りの向上＜左記1、2に対応＞ ・利用の多様化（施設内の自然とのふれあいの場、環境学習の場としての利用／自然を活かしたイベントの開催）＜左記1に対応＞ ・地場産業の活性化＜左記3に対応＞		
②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に関する基本的な考え方			景観向上効果		
②-1： 周辺の景観等への配慮の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 金山三稜を背景として周囲を丘陵で囲まれた地理的特性を活かし、美しい街並み景観を形成するため、自然環境資源と市街地をつなぐネットワークを整備する。（②-1-1） 潤いのある生活空間を創出するため、地区内に多くみられる堰や水路を景観要素として活用する。また、既存の空地は公園やまちかど広場として整備する。（②-1-2） 	・整備した空間の印象の向上（地域の資源性の再認識／良質な空間の認識）＜左記②-1-1、②-1-2、②-1-3に対応＞			
②-2： 住民等の利用を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 回遊性の高い歩行空間を創出するため、住宅地内の生活道路をつなぐネットワークを整備する。（②-2-1） 地元住民が日常的に利用できる場を創出するため、蔵などの伝統的建築物を活用した修景整備を行う。（②-2-2） 	・整備した空間の印象の向上（地域の資源性の再認識／良質な空間の認識）＜左記②-1-1、②-1-2、②-1-3に対応＞ ・整備した空間の機能向上に対する認知＜左記②-2-1、②-2-2に対応＞ ・散策路の変化＜左記②-2-1、②-2-2に対応＞			
②-3： その他	—	—			
③(①と②を実現するための)施設や空間そのものの景観整備の具体的方針		評価の項目・尺度	予測・評価手法		景観整備方針の実施確認
③-1： 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■建築物＜②-1-3、②-2-2に対応＞ ・屋根の色彩は、こげ茶・黒とする。（③-1-1） ・原則として、公道に直接接する場合の大屋根は、切妻で妻入とすること。（③-1-2） 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲のどの色彩と周辺色彩との明度比や彩度比等を尺度として、違和感の有無を評価する。 ・屋根の形態に景観面での違和感がないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既往事例により予測する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既往の優良事例と比較して評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物の屋根に関して、色彩と形態をある程度規定したことにより、街並み景観の調和が実現できた。
③-2： 細部設計、材料等選定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■建築物＜②-1-3、②-2-2に対応＞ ・屋根の材料には、積雪寒冷地であることを意識して、鉄板系・ステンレス系材料及び同等品を基本とする。 ・外壁の材料は、杉板張（生地色または風景と調和するオイルステン仕上げ、木材保護着色剤仕上げ）、また、しっくい、プラスター、モルタル等、塗壁とする。 ■生活道路の舗装材料＜②-1-1、②-2-1に対応＞ ・地域の材料である、緑色の安山岩を骨材とした洗い出し舗装とする。（③-2-1） ■水路＜②-1-1、②-1-2に対応＞ ・原則として、水路の縁（法面）は、自然石割石積施工とする。 ・可能な限り、地場材と地元の人材を活用することを基本とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根や外壁の質感、肌理に景観面での違和感がないか。 ・周囲の街並みの中で違和感がないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既往事例により予測する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既往の優良事例と比較して評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた素材の活用により、周囲の自然景観とも調和した景観形成が実現できた。
③-3： コスト削減、費用対効果を考慮した整備の考え方	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・公園等のオープンスペースにおけるファニチャーや、道路舗装の骨材に地元材を使用した。 ・“金山杉”の活用においては、地元の人材が計画・施工に関わった。
③-4： その他	<ul style="list-style-type: none"> ・“金山型住宅”の普及と地元大工の技術向上・人材育成を図り、「住宅建築コンクール」を開催する。 	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和56年より実施している「住宅建築コンクール」により、“金山型住宅”の普及（全町の35%）、および地元大工の技術向上・人材育成が進んでいる。
			整備前当時の写真		整備後の写真
					

I－3－4) 調査諸元・手法の設定に係る課題

本事例については、整備期間が長きにわたっていることと整備対象が面的に広がっていることから、想定した通り、確認された効果は多岐にわたっていた。

特にアンケート調査については、より多くの効果を拾うため、質問内容を多く設けたが、このことが逆に回収率（36%）を下げる要因となってしまうことが考えられる。しかしながら、回収率を上げることばかりに執着し、安易に質問数を少なくすることは避けるべきであり、質問内容の充実を図ることが重要である。

また、特に本事例のような特性の事業については、アンケート調査ですべての効果をとらえようとせず、ヒアリング調査も重視することが望まれる。具体的には、できるだけ様々な種類・活動内容の団体（自治会、森林組合、商工会、清掃活動団体、植栽維持管理団体、様々な世代がメンバーである団体、等）を対象とし、実際に現場で活動している状況をみながらのヒアリングが望ましい。